



湯成境

はつとぬい
あつちの川
あつちの川
あつちの川
あつちの川



あつちの川

あつちの川
あつちの川
あつちの川
あつちの川
あつちの川



河原た大臣

あつちの川
あつちの川
あつちの川
あつちの川
あつちの川



あつちの川

あつちの川
あつちの川
あつちの川
あつちの川
あつちの川



あつちの川
あつちの川
あつちの川
あつちの川
あつちの川



伊勢

あつちの川
あつちの川
あつちの川
あつちの川
あつちの川



あつちの川
あつちの川
あつちの川
あつちの川
あつちの川



元良親王

あつちの川
あつちの川
あつちの川
あつちの川
あつちの川



そせのち
宗性法師



あふの月を
まらちづみか



三條右大臣



中納言よき橘



文の康ひて秀



菅家



無信云



源宗子ねん長尾



文彦 文彦



えんぎ 糸儀等



あまのり 入のこひしん

右を



あまのり 糸儀等



あまのり 入のこひしん

主 主



あひを来しり

主 主



あひを来しり

中知言 中知言



中知言 中知言



藤原氏

あつたて

あまのついで
あまのついで
あまのついで



あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで



あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで



あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで



あまのついで

あまのついで

あまのついで
あまのついで
あまのついで



あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで



あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで



あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで



右大石の母

かげゆく
いしりゆ
あつまへ
いふはき
とらげら



大石言のね

たあやうん
えく
ありのを
まらまら
あまきり



借月司母

ふさの
ゆき
あつた
いふはき
いふはき



新泉式部

あまきん
あつた
あつた
あつた
あつた



岩式部

あつた
あつた
あつた
あつた
あつた



赤床の母

あつた
あつた
あつた
あつた
あつた



小式部内侍

あつた
あつた
あつた
あつた
あつた



大石の母

あつた
あつた
あつた
あつた
あつた



侍遊を捕
いの人を乃
くをた
八手捕
くもつ
白ひわらふ



さけらるるふもまき
た来をまた罪
今へた
おとひ
とまうりせ
人ほくあせ
いりりりり



四四

遊少知言
よとこきて
くらの
とね
大の
世に
せらるる



大橋の
おぢ
川ぎり
ふ
あし
世の



四四

相撲
木さ
とをた
あを
あを
あを



用の内侍
よの夜の
ゆあ
かひ
あ



四四

大橋の
あ
あ
あ
あ
あ



三條
あ
あ
あ
あ
あ



四四

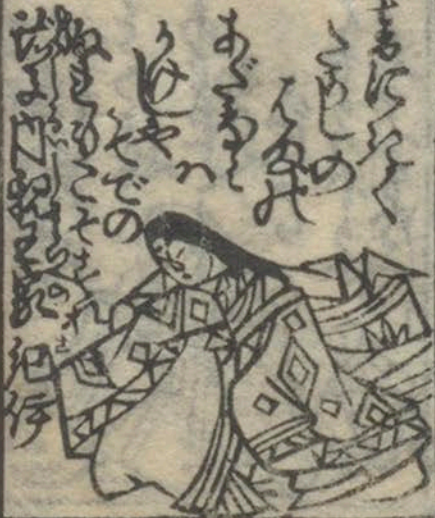
徳因法師



大細言経



良運法師



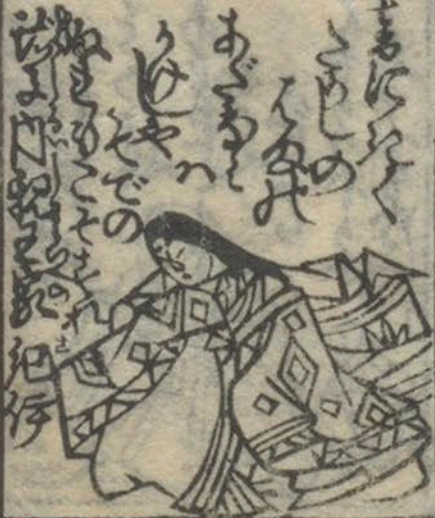
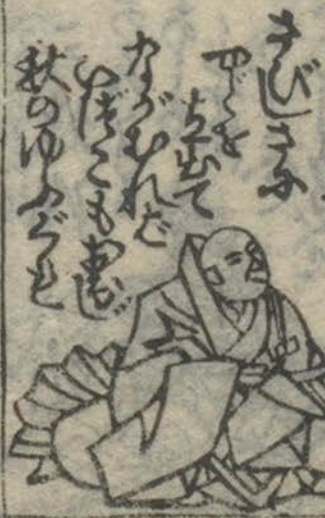
米中納言良房



基依



良運法師



源俊賴



法皇



紫雲院

岩手
せうり
たぬ川の
こまてまてまて
あひんとまて



た京き浦の浦

あひんまてまて
まてまて
まてまて
まてまて
まてまて



源昌

あまがら
まてまて
まてまて
まてまて
まてまて



侍降門

あまがら
まてまて
まてまて
まてまて
まてまて



後述本

あひんまて
まてまて
まてまて
まてまて
まてまて



及用法

あまがら
まてまて
まてまて
まてまて
まてまて



た京き浦

あひんまて
まてまて
まてまて
まてまて
まてまて



及用法

あまがら
まてまて
まてまて
まてまて
まてまて



徳意法師

よきこと
このあはれ
こころ
あひやうと
おれのおま
ほせかうりやう



身甚法師

もしもの
ほめと
まなひぬ
まはのえに
まいたちのあ
秋のゆづり



西行法師

かげと
月やん
このま
ありはと
まうちづる
こづか



おんはの

あし
のり
ひん
あま
こい
おん



式目親王

玉の
え
たね
あ
よ
と



般羅門

え
と
そ
ぬ
さ



後醍醐天皇

き
か
あ
あ
あ
あ



二條院

こ
あ
あ
あ
あ



うらつらつと
瑞雲右大臣

世の申入
つひの
うらつらつ
あまのさぶらの
はみでうらつらつ



あまのさぶらの
あまのさぶらの
あまのさぶらの

あまのさぶらの
あまのさぶらの
あまのさぶらの



あまのさぶらの
あまのさぶらの
あまのさぶらの

あまのさぶらの
あまのさぶらの
あまのさぶらの



あまのさぶらの
あまのさぶらの
あまのさぶらの

あまのさぶらの
あまのさぶらの
あまのさぶらの



あまのさぶらの
あまのさぶらの
あまのさぶらの

あまのさぶらの
あまのさぶらの
あまのさぶらの



あまのさぶらの
あまのさぶらの
あまのさぶらの

あまのさぶらの
あまのさぶらの
あまのさぶらの



あまのさぶらの
あまのさぶらの
あまのさぶらの

あまのさぶらの
あまのさぶらの
あまのさぶらの



あまのさぶらの
あまのさぶらの
あまのさぶらの

あまのさぶらの
あまのさぶらの
あまのさぶらの



